

上尾市立〇〇中学校におけるいじめ重大事態に関する調査報告書に対する所見書

まず初めにこの度の上尾市立〇〇中学校におけるいじめ重大事態に関する調査報告書(以下、「本調査」)を学校側より重大案件として認知し、自主的に調査を進めて頂いたことについて感謝申し上げます。

また、実際のいじめ発生時においても情報の拡散を一刻も早く止めるべく御尽力戴いた点についても重ねて感謝申し上げます。

本調査書におきましても我々の意見を踏まえた上で作成頂きましたので、事実と異なる点や認識の相違が無いこと確認しておりますが、本調査書のみでは我々が受けた被害や気持ちを伝えきれない為、本いじめに対する思いを表明させていただく次第です。

私の〇〇は昨年四月にこれから新しく始まる中学生生活に心を躍らせながら上尾市立〇〇中学校の門をくぐりました。

入学して間もないある日、突然SNSに〇〇の名前のフルネームで誹謗中傷の内容の情報が拡散されました。

〇〇には全く身に覚えがなく、衝撃的な情報に大きなショックを受けました。当初は気丈にも「自分は悪いことは一切していないから、戦ってくる」と学校に行きました。

しかしながらあっという間に情報は拡散されていきました。

仲の良かったお友達にも拡散されて急速に嘘の情報は広がっていきました。

〇〇本人に確認することもないまま、どんどん広がっていく様に動揺し、大切にしていたお友達への不信感、更には情報を流した生徒への怒りも加わって〇〇は戦う気力を失い、深い暗闇の中に沈んでいきました。

一瞬で〇〇の学校生活は変わってしまいました。

SNS拡散発覚後、学級担任の先生が積極的に調査をしてくださり、人違いであることが判明しました。また、拡散を早急に止めるように動いてくれました。

加害者からは「人違いでした。ごめんなさい。」との謝罪がありましたが、情報の拡散を止める手立てはしませんでした。

「ごめんなさい」だけで終われるものでしょうか？

既に情報はものすごいスピードで拡散されて一学年だけでなく、

〇〇の〇〇が在籍する他学年にも広がっていきました。

いつも笑顔で元気だった〇〇ある朝、起きてくるなりそれまで見たことのない悲しそうな顔で「学校には行けない」と、ポツリと言いました。

母である私はそんな〇〇を抱きしめる事しかできませんでした。

そばに寄り添い、共に辛い日々を過ごしました。

かなりの期間学校に行けない日々が続いたので、学校側と話し合い、対応策を〇〇に提案しました。

でも〇〇は「自分は学校に行こうと頑張っている。不登校ではない」と言い切りました。

この時に改めて、〇〇の心は立ち直れないほどの深く大きな精神的被害を被っていること、

〇〇自身が自分の心の複雑な思いに苦しんでいることを知らされました。

何とか気持ちを奮い立たせて学校に通おうとする〇〇の姿を見て、母である私もしっかり支えなければと覚悟を決めました。

私はどんな声掛けをしたらいいのか？どんなことをしてあげられるのか、考えて、考えて悩み続けました。

病院の精神科にも行きましたし、学校のカウンセリングも受けました。

学校に行けなかった日々は家族全員が苦しく、つらい日々でした。

その間でも情報を流した生徒は何事もなかったように学校に通い、普通の日常生活を過ごしていると思うと怒りが沸いてきました。

その後、先生方の支え、クラスメイトの仲間が学校に行けるように誘って応援してくれて、

二学期の途中から少しずつ学校に行けるようになりました。

その間、情報を流した生徒への対応、説明責任は現在も実施されていません。

中学校のスマホ所有率は80%を超えているといえます。主な用途はSNSや動画視聴です。

SNS発信によるトラブル、個人情報の投稿禁止などについて、親は指導する責任があると思います。

我々はその点を踏まえ、我が子へスマホを持たすのはまだ早いと判断し、持たせていませんでしたが、何も考えずにスマホを持たせている浅はかな親や子供により被害を受けて特に憤りを強く感じていました。

世界中の人が見ているという意識をもつこと、便利である反面、間違った情報も人の一生も失いかねない情報も急速に拡散されていく怖さがあります。

流された情報はその人の心に永久に残ります。私たち親が学校が社会がその怖さを教え、被害者も加害者も出さない社会にしていけることが大切だと考えています。

以上